

三重の観光地域づくり法人 DMO

地方での人口減少、高齢化が進むなか「観光」を地域活性化の原動力にしようとする活動しているのがDMO(観光地域づくり法人)です。Destination Management Organization(デスティネーション・マネジメント)の頭文字で、欧米を発祥としており、平成27(2015)年から観光庁が「日本版DMO」の登録制度を開始しました。

観光を地域経営の視点で捉え、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域住民が自らの地域に誇りを持ち、愛着を感じられるような持続可能な観光地域づくりをめざしているのが特徴です。県内でも14法人のDMOが活動をしています。

※各施設の営業日時・料金・予約方法や受け入れ人数などには違いがあり、状況に応じて延期や休業する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：堀口裕世・中川絵美子・大島千佳
撮影：梅川紀彦・松原豊・尾之内孝昭
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

三重県の観光地域づくりの司令塔

公益社団法人 三重県観光連盟

〔津市羽所町〕

三重県内の観光情報をまとめた「観光三重」の冊子やWEBサイトを見たことがある人も多いのではないだろうか。その制作をしているのが「公益社団法人三重県観光連盟」です。

DMO(観光地域づくり法人)は、対象とするエリアの広さに応じて「広域連携DMO」「都道府県DMO」「地域DMO」の3種類に区分されます。三重県観光連盟は都道府県DMOとして、三重県の観光における中期・単年度の事業計画づくり、国内外への観光マーケティングやプロモーション、地域データの活用支援、また

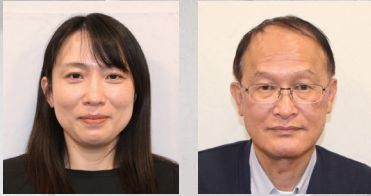
県内の地域DMO(13法人)の育成や支援を行っています。

具体的な活動は例えば、旅行者アンケートなどがあります。これまでは県行政、三重県観光連盟、地域の観光事業者がそれぞれバラバラに観光客にアプローチしており、三重県としての強みが活かされていないという課題がありました。そこで、同連盟がアンケートのシステムを作成し、各地域DMOなどが観光客にアンケートを実施、回答データの集計・分析を同連盟が担い、その分析結果を各地域DMOなどが地域での観光計画に活かす…とい

う役割分担を行っています。

また地域DMOに対しては、観光戦略の策定の支援、地域の観光資源商品の商談のサポート、国内誘客、プロモーションなど、地域DMOが取り組みにくい広域的な視点でのサポートを担うのが役割です。とりわけ令和6年度からインバウンドに注力しており、インバウンド委員会を設立し、台湾・タイ・シンガポールなどアジアをターゲットに取り組んでいます。

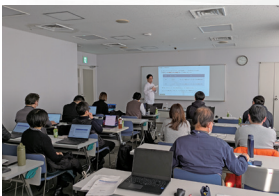
「三重県全体の観光の魅力を高めるために、地域DMOと協力連携しながら、基盤づくりに取り組んでいます」と事務局次長の金丸幸穂さん。三重県の観光の縁の下の力持ちとして、なくてはならない存在となっています。



金丸 幸穂さん 寺本 久彦さん



インバウンド委員会※



旅行者アンケート研修会※



ボランティアガイド全体研修会※



ファムトリップ(鬼ヶ城)※

お問い合わせ

公益社団法人 三重県観光連盟

TEL 059-224-5904

※印の写真は取材先から提供していただきました

自然に恵まれた「湯の山温泉」の新しい魅力をカタチに！
一般社団法人

菰野町観光協会

【菰野町菰野】



「尾高高原キャンプ場」で灯された「湯治のあかり」

数か所ある夜景スポットや宿泊客限定スポットで、特別なひとときが楽しめます※

鈴鹿山脈の最高峰、御在所岳の麓に広がり開湯1300年の歴史を誇る「湯の山温泉」。「湯の山温泉」と御在所岳の山上を結ぶ「御在所ロープウェイ」。豊かな自然に恵まれた菰野町の観光スポットでは四季折々の景観が広がり、訪れる観光客の心を掴みます。そんな菰野町の観光を中心となってささえているのが、一般社団法人菰野町観光協会。令和4年に観光地域づくり法人(DMO)として登録されました。もともとは任意団体として昭和32(1957)年

に菰野町役場内で設立され、DMO登録を目的として平成30(2018)年に法人化。地域や地域の観光事業者の架け橋となり、菰野町の観光振興を担っています。

菰野町観光のテーマは「自然とおもてなし」。「菰野町に来ていただいた方、この地で癒されて笑顔で帰っていただければ」と、菰野町観光協会イベント企画やマーケティング、プロモーション活動に携わる堀内さんは話します。年間を通じてさまざまなイベントを行っているなか、昨年8月に初めて開催された「湯治のあかり」は、日帰り客が多いという課題解決のために考案されたイベントの一つ。それまで少なかったナイトコンテンツの開催により、夜の滞在時間を増やして宿泊客を増加させようと、「湯の山温泉」の各旅館とタイアップのもとで行われました。湯の山の夜



堀内 あかねさん※

景スポットに浮かぶ「LED浮遊ランタン」が放つ、幻想的なフォトジェニック空間が好評で、今後も継続予定です。開催半年前に台湾のインフルエンサーをモニター招待し、SNS発信してもらうなど、イベント告知の方法にも工夫が光ります。

また、ゆる登山や山ガールブームが年々加速しているなかで、初心者でも楽しめるように、ボランティアガイドを付けた登山ツアー「THE HIKE HIKE (ザ・ハイク)」も人気の定着イベント。参加者の約半分が登山未経験の若い方で、毎年春と秋に開催しています。昼食

には、菰野町特産品のマコモなどを使用した「菰野藩主弁当」を提供。告知はSNSやWEBで発信し、おしゃれなイメージ戦略



【THE HIKE】の昼食「菰野藩主弁当」※

も功を奏して、毎回大盛況のイベントになっています。ほかにも温泉とウォーキングを組み合わせた「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」や、「KOMONO 美巡旅」など、さまざまな企画が

盛りだくさんです。現在開催している「ジオウェルネスラリー」は、菰野町を訪れた方が気軽に参加できるデジタルスタンプラリー。町内事業者の協力のもと、参加者は楽しみながら特典を受けられて、主催者側はデータ収集と分析が自動的にできる、地域・観光客・主催者側にとって三方良しの仕組みです。集めたデータの活用により、さらに魅力的な今後の菰野町観光振興に注目です。

お問い合わせ

一般社団法人 菰野町観光協会

TEL 059-394-0050



「湯の山温泉」と「御在所ロープウェイ」※



【THE HIKE in 御在所岳】※



【ONSEN・ガストロノミーウォーキング】※



毎年好評！観光列車「つどい」足湯列車※



「ジオウェルネスラリー」のコンプリート賞品

※印の写真は取材先から提供していただきました

城下町・芭蕉ニニンジャ：魅力は無敵大

一般社団法人

伊賀上野観光協会

(伊賀上野DMO)

【伊賀市上野】



ニンジャになって、認定をゲット！※



忍者の聖地をめざして世界中から観光客が集まります。忍者について学べる「伊賀流忍者博物館」をはじめ、忍者に変身して観光できる「忍者変身処」、町なかで忍者修行体験ができる「伊賀忍者道場」、颯爽と町を走る忍者列車、昨年8月には伊賀流忍者体験施設「万川集海」がオープンするなど、多彩にニンジャを楽しめるのが忍者市「伊賀市」。

忍者だけでない歴史文化があふれているのも大きな魅力。世界に誇る漂泊の詩人俳聖松尾芭蕉、先人たちが育んだ伊賀焼や伊賀くみひもの伝統技術、伊賀牛、豆腐田楽などの食文化。

また今年でユネスコ無形文化遺産登録10周年を迎える上野天神祭は、華やかな町人文化の歴史の深さを現代に語り継いでいます。



事務局次長の
安田 聡志さん



事務局長の
中浦 順一郎さん

そんな伊賀

市の観光まちづくりの旗振り役を担うのが「伊賀上野DMO」。伊賀市、上野商工会議所、伊賀市商工会、伊賀上野観光協会の4者による協議体で進められています。事務局長の中浦順一郎さんと事務局次長の安田聡志さんにお話を伺いました。「4つの組織が協業し、それぞれの強みを活かした観光業だけではない製造業、農業など、幅広い事業者とのネットワーク構築、情報収集、受入環境整備、情報発信に取り組んでいます。」「マーケティングに取り組み、伊賀観光の動向を地域事業者に共有、各種プロ

モーションや、研修なども一元的に行っています。また



「伊賀イド」は情報満載



テーマを絞った旅を提案

の観光パンフレットや周遊マップの作成、オウンドメディアによる情報発信を行い、誘客に取り組んでいます。さらに、「インバンド向け高付加価値旅行商品の造成にも取り組んでおり、本物を求めるお客さまに向けて、伊賀の歴史文化を深く理解できる本格的な体験の販売を始めています。」また、「市民に向けたインナープロモーションとして『伊賀の

これからを考える』をコンセプトにした『アガコレ観光EXPO』を開催、中高生を対象にした『伊賀学王決定戦』や、多方面で活躍する地域事業者を紹介する企画や伊賀の食など、伊賀市の魅力をより深く知ってもらうことにも取り組んでいます。

昨夏オープンした「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」は、坂倉準三氏が設計した旧市役所をリノベーションした複合施設で、現代的なホテルとカフェ、市立図書館、同観光協会が運営する土産物店「伊賀百貨 Souvenir Shop」と観光インフォメーションセンターが入居し、市民や観光客が楽しめる施設となっている。内に外に発信を重ね、伊賀のまちは一層賑わっていくことでしょう。

お問い合わせ

一般社団法人

伊賀上野観光協会(伊賀上野DMO)
TEL 0595-12617788



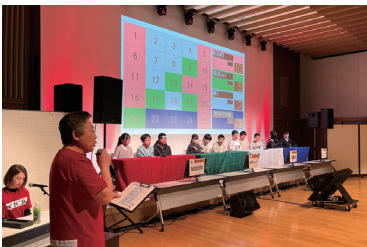
「伊賀流忍者博物館」



「ニンジャになりたい」と世界中から※



「白鳳城」とも呼ばれる「伊賀上野城」



「伊賀学王決定戦」で学びを促進※



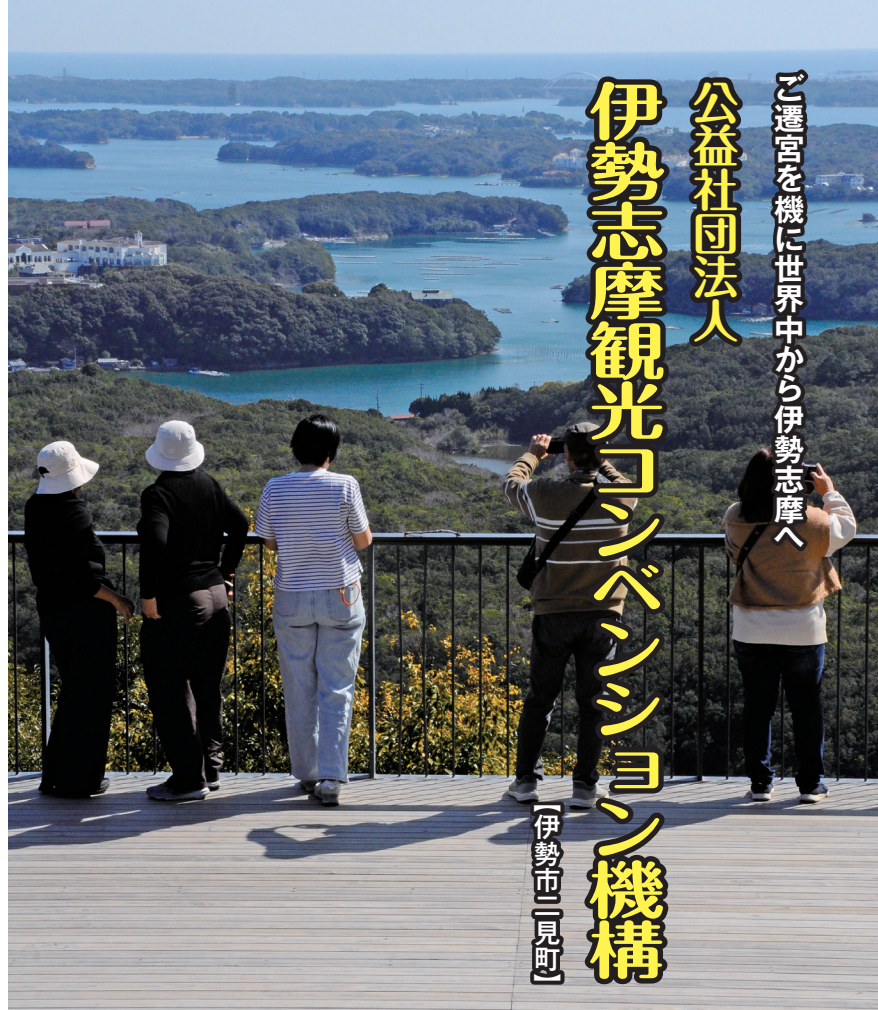
「伊賀百貨」は多彩な品ぞろえ

※印の写真は取材先から提供していただきました

「遷宮を機に世界中から伊勢志摩へ
公益社団法人

伊勢志摩観光コンベンション機構

「伊勢市二見町」



志摩市の「横山展望台」から英虞湾の絶景を見る

風光明媚な伊勢志摩地域に、イベントなどの誘致や情報発信などを展開してきた伊勢志摩観光コンベンション機構。「ここでは、市町やそれぞれの観光協会

という枠を超えて、県も含めた官民一体の組織で、広い視野でさまざまな企画やプロモーションを行っています」と話すのは、須崎 充博さん。幅広い人脈と知

識を駆使して地域の観光をプッシュする仕掛け人と評判の専務理事



専務理事の須崎 充博さん*

です。「伊勢志摩地域には神宮という日本文化の核があり、豊かで美しい自然と歴史に恵まれた素晴らしい場所でしょう。世界中から、たくさんの人に来てほしいんですよ」と地元愛が溢れます。

「伊勢志摩フィルムコミッション」としての映画などの撮影誘致や、伊勢志摩サミットに代表される大規模会議・MICEの誘致と支援、万博や東京ミッドタウンでのイベントなど多彩な活動で衆目を集めてきた「伊勢志摩観光コンベンション機構」ですが、「今春から『いせしせんぐう旅』という新事業を開始しました」とのこと。

「たくさんの方が御朱印帳を持って寺社を訪ねておられるでしょう。それと同じように専用の手帳を購入していただき、伊勢志摩をまわって、各地で『旅札

カード』を集めてもらうという企画です。昨年からは始まった神宮式年遷宮がきっかけですが、伊勢だけではなく、広い範囲で楽しんでいただきたいと思っています。「旅札カード」は名刺大のカラフルなカードで、スポットごとに違うおしゃれなデザイン。配布している名所やスポットに行つて手帳を見せることでそれぞれのカードをゲットできます。手帳には日付やメモを書き入れるスペースがあり、「旅札カード」以外にも、名刺や写真などを入れて思い出を残すのも楽しそうです。「伊勢志摩地域の各

所その他、玉城町などにもカードを置いてあるスポットがあります。これから三重県内全域へどんどん広げていきたいと思っています。カードをつくりたいお店や団体の方もご連絡いただきたいですね」と、7年後の遷御せんぎょに向かって、意気軒昂いきげんかうです。ほかにも、応援商品の開発や「結びの旅」のデジタルスタンプラリーなど、さまざまな企画が展開されています。



「旅札」を持って伊勢志摩へ*



カラフルな札を集めて*

ご遷宮に向かって活気づく伊勢志摩で、次には何が展開されるか、目が離せません。

お問い合わせ

公益社団法人
伊勢志摩観光
コンベンション機構
TEL 0596-44-0800



田丸城跡も「せんぐう旅」に参加



ハートの入り江が見える見江島展望台にも*



二見浦の夫婦岩にも「旅札カード」が*



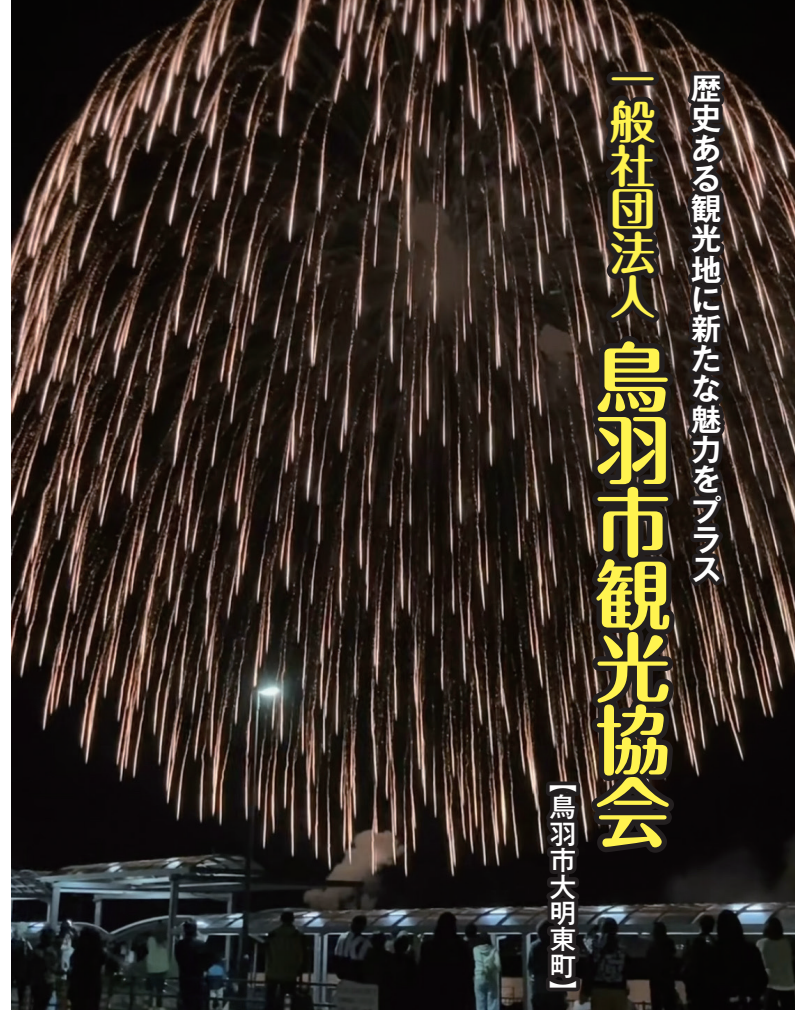
「せんぐう旅」のグッズも充実*

*印の写真は取材先から提供していただきました

歴史ある観光地に新たな魅力をプラス

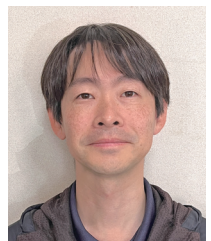
一般社団法人 鳥羽市観光協会

【鳥羽市大明東町】



「九鬼 嘉隆プロジェクト」で行われた「九鬼水軍大花火」※

要とされる時代ですので、収集したデータを活用することで、地域



事務局長の大村 佳之さん

鳥羽市は、古くから有名な観光地。き

らめく海と個性あふれる文化を持つ島々、伊勢海老やアワビなどの美味しい海の幸、九鬼水軍の歴史、海女小屋体験、「ミキモト真珠島」、「鳥羽水族館」…と魅力は枚挙にいとまがないほどです。

お話を伺ったのは、鳥羽市観光協会の事務局長・大村 佳之さん。「当協会は、平成28（2016）年から、観光庁が推進する地域DMOに登録されています。観光客の動向やニーズを把握し、データを活用したマーケティングの推進が必

要とされる時代ですので、収集したデータを活用することで、地域全体での観光プロモーションや受入環境の向上に役立てるとともに、地域の魅力発信の強化を行っています。今までによく知られてきたポイントに加えて、新しい鳥羽の魅力も知っていただきたいと思っています」のことは通り、「鳥羽市観光協会では、商品開発、ブランド作りなど6つの委員会をつくって観光事業や安全



「答志島トロさわらの脂のり」は「伊勢湾の奇跡」※

た『答志島トロさわら』は9年目を迎え、これを目当てに鳥羽に来られるお客さまも増えてきました。また、九鬼 嘉隆プロジェクトでは歴史的な魅力を体感していただけるイベントなどを行いました。鳥羽城跡の整備も進み、歴史ロマンを求める方たちが増えました」。

鳥羽市のふるさと納税業務も現在、観光協会が引き受けています。「昨年も約11億円のご寄付をいただきました。1000点を超える返礼品をご用意しており、お客さまが実際に鳥羽を訪れた際に、宿泊や食事などに使うことも可能です。また、こちらにいらしたお客さま

に、現地ですらと納税をしていただき、すぐにポイントをお支払いに使用できるという形も進んでいます。話題の商品は？と伺うと「鳥羽水族館にいるラッコの『キラちゃん』と『メイちゃん』が大人気なのですが、水族館とのコラボ商品『きらきら』の『とうめい』の



ラッコの「メイちゃん」、「キラちゃん」、グッズは即日完売 ※

めいししのめいし」を出したところ、即日完売でお問い合わせも多かったですね」とのこと。

最近、鳥羽市の神島をモデルとしたゲーム「パラノマサイト」が流行していて、その聖地巡礼に来る人々も多いといえます。楽しい、美しい、美味しい、癒やされる…などの魅力に「かわいい」や「推し」に逢う」も加わって、鳥羽市の魅力はどんどん更新されているようです。

お問い合わせ

一般社団法人 鳥羽市観光協会
TEL 0599-12513019



「ばえる、写真を撮るなら「鳥羽城跡」へ



海と島には限りない魅力が※



カモメと親しむ ※



アワビの豊漁に海女さんにもっこり※



採れたてのカキを心ゆくまで ※

※印の写真は取材先から提供していただきました

東紀州地域の魅力を発信

一般社団法人

東紀州地域振興公社

〔熊野市井戸町〕



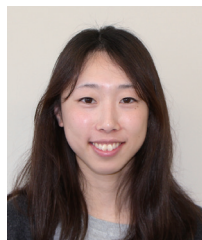
「熊野古道語り部」によるガイド※

世界遺産・熊野古道伊勢路がある東紀州地域。「一般社団法人東紀州地域振興公社」は、平成6（1994）年に発足した協議会を前身とし、地域の観光と産業のプロモーションを一体的に行う組織として平成19（2007）年に設立。令和5年にDMOとなりました。対象地域は、尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町の5市町。熊野古道の語り部の派遣や古道の保全活動の支援、古道を始めとする地域の観光資源を活かした

誘客・伝統工芸品や特産品のセールス活動などに取り組んでいます。

特にDMOとしては、関係団体とともに地域全体の観光戦略の策定、個々の観光事業者では取り組みにくい地域観光の全体的なプロモーション、観光に関するデータの調査・分析をし、それらを市町に情報提供しています。また広域的な視点から観光の課題の洗い出しと対応も行っています。例えば、東紀州地域は大規模なホテルはありませんが、民宿やゲストハウスは増加しています。これらの情報を集約し、旅行者が分かりやすいかたちにして発信する役割などを担っています。

「伊勢路の魅力は、山や海などの豊かな自然を感じられることももちろんですが、この地域



牧野 好美(このみ)さん



横平 修一さん

で暮らしてきた人々の生活文化と密接につながった歴史があることが最大の魅力です。歴史や文化を知ることが初めて世界遺産として実感できます」と次長兼観光課長の横平修一さん。活動の中では、古道の魅力や歴史を伝えるガイドの派遣も実施しており、昨年は個人やツアー客など564件、10026人（1月から12月の合計）が利用されました。

また地域全体のインバウンドへのプロモーションも担っています。調査データの分析によると東紀州地域は欧米、特にドイツからの旅行者が多いということがわかりました。ドイツには街道文

化があり、歩くことが好きな国民性から東紀州との親和性が高いのではないかと、いう仮説を立て、そこで昨年度はドイツの方を対象にしたモニターツアーを企画しました。古道歩きをメインに、木工体験で地元の職人と触れる体験、尾鷲市のナイトホッピング（居酒屋やスナックのはしごツアー）などを取り入れたモニターツアーを企画・実施し、ドイツの旅行事情に詳しい方の意見をいただき、磨き上げているそうです。

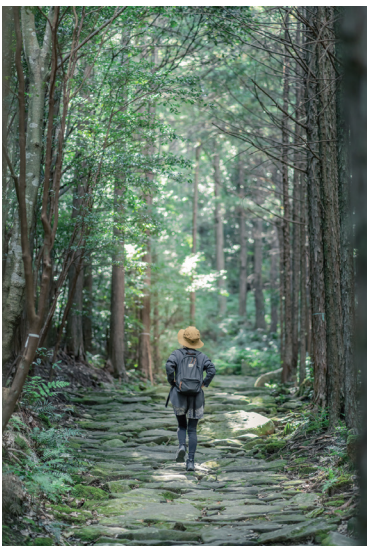
また海・山・川の全ての自然を感じられる地形を活かして「サイクリングポイントサイト」を立ち上げ、サイクリングを軸とした観光客の呼び込みなどにも取り組むなど、東紀州まるごとの豊かな地域資源を活かし、それを次世代につなげるような地域活性化に取り組んでいます。



サイクリングのようす※

お問い合わせ

一般社団法人 東紀州地域振興公社
TEL 0597-8916172



熊野古道・馬越峠※



モニターツアーのようす※



獅子岩(熊野市)



岩屋堂(尾鷲市)※

※印の写真は取材先から提供していただきました